

令和4年度 第三回「食を通じた地域のプロモーション・交流事業」を 岩手県盛岡市ほかで開催しました！

令和4年度第三回目のツアーは、中国で人気が高く、Weiboのフォロワー数が約42万人の日本在住インフルエンサー「乐乐 Rita (リタ) さん」を盛岡市ほか6市町（岩手県八幡平市・宮古市・岩泉町・葛巻町、秋田県鹿角市・小坂町）にお招きし、地方自治体及び関係機関の協力のもと、2022年10月4日（火）～7日（金）の3泊4日の行程で実施しました。

本来であれば、海外のABCクッキングスタジオの生徒を招いてツアーを行うところですが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、第一回と同様に海外で発信力を持つ国内在住の外国人インフルエンサーにツアーを体験していただきました。

岩手県及び秋田県にまたがる「盛岡・八幡平広域観光エリア」に位置するこの7市町には、雄大な自然が広がる「十和田八幡平国立公園」やリアス式海岸で有名な「三陸復興国立公園」のみならず、有名な温泉地のほか、世界遺産である「大湯環状列石」を有し、赤みがおいしいことで知られる「日本短角種（牛）」や三陸海岸の海の幸など魅力的な観光資源に溢れています。

この度、インフルエンサーによる情報発信を通じて、地域や食の魅力を中国の消費者に伝えるべく、盛岡市を中心とする様々な食、自然体験や、観光コンテンツを訪問しました。ツアーの様子をまとめた動画も公開しておりますので、URLよりぜひご覧ください！

【https://www.youtube.com/watch?v=0Q_SkSWrRME】

ツアーの詳細については、以下のとおりです。

目 次

<JR盛岡駅 ツアー開始>（盛岡市）

今回のツアーの玄関口であるJR盛岡駅に到着したRitaさんを盛岡市職員が横断幕でお出迎えし、和やかな雰囲気の中で、第三回「食を通じた地域のプロモーション・交流事業」がスタートしました。



（JR盛岡駅に到着したRitaさん）

<魚菜亭すみよし> (宮古市)

JR 盛岡駅 (盛岡市) から一路、東へ進み三陸海岸に面した本州最東端の地、鮭ヶ崎を要する宮古市へ到着し、JR 宮古駅から徒歩1分の場所にある魚菜亭すみよしで「瓶ドン」を頂きました。岩手県沿岸では、昔から採れたてのウニを牛乳瓶に詰めて保存するスタイルが一般的で、これをヒントに考案されたのが「瓶ドン」、宮古の旬の食材を牛乳瓶に入れ、お客様自身がその場でご飯にかけて食べる体験型のご当地丼は宮古市各地で提供されています。

ユニークな昼食を召し上がった Rita さんからは「瓶ドン自体とても可愛くて映えます！今まで体験したことのない食べ方ですね！中の海鮮も新鮮で美味しいです、これは絶対大人気になりますね。」とのコメントがありました。



(魚菜亭すみよし 瓶ドン)

<浄土ヶ浜、青の洞窟 (さっぱ船遊覧)> (宮古市)

平成 25 年 9 月に日本ジオパークとして認定された三陸ジオパークは、青森県八戸市から岩手県の沿岸を縦断して、宮城県気仙沼市まで南北約 220km、東西 80km で、その沿岸部は約 300km にもおよぶ広大なジオパークです。中でも、宮古エリアは、ダイナミックな自然景観が魅力で、「浄土ヶ浜」と「青の洞窟 (さっぱ船遊覧)」を訪問しました。

「浄土ヶ浜」は、さながら浄土のようだと評され、白い岩肌と松の緑のコントラストが美しい景勝地で平成 24 年には国の名勝に指定されました。また、「青の洞窟」と呼ばれる半分海水に浸かった八戸市まで繋がっている？という噂の八戸穴をさっぱ船 (小型漁船) で探索し、エターナルグリーン (青緑色) の海と元気なウミネコに Rita さんも終始、驚きの様子でした。



(浄土ヶ浜)



(ウミネコの餌付け体験)

※【宮古うみねこ丸（宮古市遊覧船）】（宮古市）

当日は運休日のため、あいにく乗船できませんでしたが、宮古うみねこ丸（宮古市遊覧船）に乗船すると、船上からしか見ることができない太平洋の大パノラマやローソク岩など、美しい宮古の海岸線を満喫することができます。今回は、三陸海岸クルージングを楽しむことができず Ritaさんは残念がっていましたが、次に来るときはぜひ、乗船したいと話していました。

- 天候や海の状況により運休になる場合があります
- 7月17日～8月31日まで毎日運行



（58年にわたり浄土ヶ浜で親しまれてきた遊覧船が、リニューアルされて令和4年7月から運航を開始）

<浄土ヶ浜パークホテル>（宮古市）

本州最東端の街、三陸復興国立公園浄土ヶ浜まで徒歩10分の「浄土ヶ浜パークホテル」にて、お部屋から太平洋や宮古湾、赤松林と静かな自然を満喫することが出来ました。また、三陸の大自然の恵みを受けた、海の幸、山の幸と、大浴場・露天風呂に癒された Ritaさんからは笑顔が絶えませんでした。また、愛犬家の Ritaさんからは、「ペットと一緒に泊まれるのはとてもいいですね。」との感想もありました。



（宿泊されたお部屋）



（短角種（牛）のステーキ）

<海鮮居酒屋 山水 (さんすい) > (宮古市)

どんこ (エゾイソアイナメ)、かつお、ホヤなど三陸ならではの季節の海産物や地酒などを地域の方から長年愛されている「山水 (さんすい)」で頂きました。Rita さんからは、「下町の雰囲気でもとても親近感があるので、ザ・ニッポンって感じですね！料理も美味しくて隠れ家的なお店で大好きです。」とのコメントがありました。



(新鮮な海鮮と地酒)



(店主、女将さんとの一枚)



2 日 目

< 龍泉洞 > (岩泉町)

ツアー 2 日目は朝食の後、宮古市を北上し、本州一広い町「岩泉町」へと到着、国指定天然記念物・日本三大鍾乳洞である「龍泉洞」を訪問しました。ドラゴンブルーと称される地底湖が待つ神秘の鍾乳洞に訪問前から興奮していた Rita さん。地元ガイドさんの熱心な案内に耳を傾けながら約 700m の観光コースを歩きました。「深い青色に輝く地底湖は、見る人が圧倒され感動する美しさですね。」とコメント。町内の上水道水として龍泉洞の水が使用されているとのお話には、一同から驚きと、うらやましいとの声が挙がりました。また、今なお調査が続けられている洞窟であることを知り、新たな地底湖が見られることに思いを馳せながら次の目的地へ。



(龍泉洞入口)



(ドラゴンブルーの地底湖)

< 龍泉洞温泉ホテル > (岩泉町)

龍泉洞から車を走らせること約 5 分、「龍泉洞温泉ホテル」に到着。宇霊羅山（うれいらさん）の麓、広大な自然に囲まれた静かなホテルでは、大自然の中、清水川のせせらぎを聴きながらゆっくりくつろぐことができ、龍泉洞までの遊歩道も好評。観光にもビジネスにも最適で、松茸など地産地消にこだわった調理長自慢のお料理を堪能することができます。また、岩泉ヨーグルト・岩泉牛乳が好きだけ召し上がることができるそうです！

ここでは、いわずみ短角牛、岩泉産の松茸などを使用した昼食に Rita さんは大満足の様子で、「短角牛すごく美味しかったです、刺身を入れる氷で出来たお椀も印象的です。また松茸の土瓶蒸しもすごく良かったです！」と話していました。



(地元食材がふんだんに使用された昼食)

<道の駅いわいずみ> (岩泉町)

次に訪れたのは、「道の駅いわいずみ」。岩泉町の特産品が販売されているだけではなく、レストラン岩泉では、いわいずみ短角牛・龍泉洞黒豚や産地直送野菜など、地場の食材を使ったメニューがいただけます。

なお、先ほど地元食材をふんだんに使った料理をいただいたため、ここでは、2020年にオープンしたイタリアンジェラート ViTO × IWAIZUMI で 18 種類のフレーバーから好きな味を選んでトリプルで注文した Rita さん、「ジェラートとても美味しかったです。道の駅のお土産の種類も豊富で、お土産を選びきれない。」との感想がありました。



(「ViTO×IWAIZUMI」のイタリアンジェラート)

<くずまき高原牧場> (葛巻町)

岩泉町から、次に向かったのは葛巻町、北上高地のある北緯 40 度に位置し、自然の恵みを生かした、ミルクとワインとクリーンエネルギーの町です。ここでは、年中無休、入場・駐車場無料で酪農や牧場体験ができる「くずまき高原牧場」を訪問しました。

バターづくりに挑戦した Rita さん、係の方から手渡された容器をシェイクするだけと説明を受けて、一生懸命に降り続けるも通常で出来上がる時間 10 分を超えても全くバターが出来上がる様子がありません。スタッフや自治体の職員みんなで頑張ること約 30 分、やっとのことで完成したバターに感動の声が挙がりました。

また、牧場内で飼育されているウサギやヤギ等の動物とのふれあいに癒された Rita さんは大満足の様子でした。



(バターづくりに奮闘する Rita さん)



(動物とのふれあい)

<愛真館> (盛岡市)

再び、盛岡市に帰ってきて宿泊したのは、盛岡市街地の西、御所湖の湖畔にあるつなぎ温泉の「愛真館」です。なんと、18種の湯棚を堪能することができる湯めぐり宿で、中でもNHK朝の連続テレビ小説「どんと晴れ」にて老舗旅館のお風呂として有名になった庭園縄文風呂が有名です。また、お部屋から望める湖の美しさ、岩手産の食材を生かした料理の数々と、温泉・眺望・食事の三拍子が揃っており Rita さんからは「パーフェクト！」のコメントがありました。



(ホテル「愛真館」)

<ホテル紫苑 さんさ踊り見学> (盛岡市)

さんさ踊りは、毎年8月1日から4日に盛岡市で開催される祭りです。藩政時代から伝わる盆踊り「盛岡さんさ踊り」。踊り手、笛、太鼓などによる力強いリズムにあわせた勇壮でエネルギッシュな群舞が、市内のメインストリートで繰り広げられる様は、まさに圧巻、迫力満点です。

愛真館から無料の送迎バスで向かったホテル紫苑では、盛岡さんさ踊りの常設公演が行われており、演舞を見学させていただきました。Rita さん「インパクトのある演出に大変驚いた！」との感想と、司会から、市各地に伝わるその土地特有の伝統さんさ踊りがあることなど解説に耳を傾けていました。残念ながら、新型コロナウイルス感染症の影響で踊りの体験は出来ませんでしたが、今後、踊り体験ができるようになることを願っているとも語っていました。



(盛岡さんさ踊り)

3 日 目

<道の駅かつの> (鹿角市)

ツアー3日目は、岩手県から秋田県に舞台を移しました。鹿角市は、きりたんぼ発祥の地であることや、世界文化遺産登録された「大湯環状列石」などがあることで有名です。旅行新聞新社主催による第47回プロが選ぶ観光・食事・土産物100選の土地物産施設に選ばれ、鹿角市の魅力が存分に詰まった「道の駅かつの」を訪問しました。

はじめに、祭り展示館を見学。平成26年に花輪松地の屋台行事として国の重要無形民俗文化財、平成28年には山・鉾・屋台行事の一つとしてユネスコ無形文化遺産に登録された花輪ばやしの屋台を間近で見たRitaさんからは「近距離での迫力がすごい！」と高評価。

次に行ったのは、「たんぼづくり体験」です。係の方から丁寧に教えてもらい、またRitaさんの手先の器用さもあって、和気あいあいのなかスムーズにたんぼが出来上がりました！伝統料理を自分で作れて、食べられる経験は貴重で、「たんぼ美味しかったです！作り方も意外と簡単なので、地元の特産品を自分で作れて面白かったです。」とコメントされていました。

最後は、道の駅名物の比内地鶏わっぱ膳を頂きました。地元の伝統的な器と食材を使った膳に、大満足の様子でした。



(祭り展示館)



(比内地鶏わっぱ膳)



(たんぼづくり体験)



<大湯ストーンサークル館> (鹿角市)

次は、同市内にある北海道・北東北の縄文遺跡群として世界文化遺産に登録された「大湯環状列石」をガイドの案内のもと見学をしました。大湯環状列石のガイダンス施設である展示ホールでは出土品のほか、発掘調査で明らかになった縄文時代の精神文化や社会構造を知ることができました。また、隣の遺跡では、4,000年前の雰囲気を感じ、古代ロマンに思いを馳せられていました。



(ガイドから解説を受ける Rita さん)

<小坂鉱山事務所・康楽館・明治百年通り> (小坂町)

続いて、鹿角市から向かった先は、19世紀初頭に鉱山が発見され、金・銀の採掘で町が栄えた小坂町です。往時の反映を感じ取ることができる3つの場所を訪問しました。

すべて天然秋田杉で建築された「小坂鉱山事務所」では、レンタルドレスの貸し出しを受けた Rita さん、「女性から人気でそう！」との感想がありました。また、小坂鉱山に働く人のための厚生施設として誕生した「康楽館」は、未だ現役で講演をしている芝居小屋で、栈敷だけでなく楽屋や奈落なども見学しました。



(小坂鉱山事務所のらせん階段)



(康楽館)



(明治百年通り)

<小坂七滝ワイナリー・鵺地区ぶどう畑・七滝> (小坂町)

十和田湖に隣接した小坂町では、かつての噴火で出た火山灰が堆積した土壌を生かして、山ぶどう系の品種を栽培し、小坂町の醸造所で醸造した純小坂産のワインを製造し、販売しています。地元をよく知る小坂七滝ワイナリースタッフ同行のもと、醸造所である「小坂七滝ワイナリー」、ワインの原料であるぶどうが栽培されている「鵺地区ぶどう畑」、隣接する日本の滝 100 選の「七滝」を訪問しました。

Rita さんから「七滝綺麗ですね！特に到着した時の夕日で優しいイメージが付きました。ワイナリーでワインの醸造に関する知識をいっぱいもらい、とても勉強になりました。」と感想がありました。



(小坂七滝ワイナリー)



(七滝)

<ホテル小坂ゴールドパレス> (小坂町)

小坂町の中心部にありながら、落ち着いたたたずまいが特徴の「小坂ゴールドパレス」では、十和田湖ひめますをはじめとした地元食材を使ったフルコースと地元産のワインをいただきました。

フレンチのフルコースでは一皿毎に異なる種類のワインを頂き、それぞれが醸すマリージュを心行くまで堪能した Rita さんからは、「食事とワインの試飲はとても良かったです！ホテルも清潔感があってとても良かったです。」と語っていました。



(スタッフの解説に耳を傾けながら、食事を楽しむ Rita さん)

4 日 目

<紫明亭・発荷峠展望台> (小坂町)

最終日となるツアー4日目は、十和田湖を見下ろすことができる「紫明亭 (しめいてい) 展望台」と「発荷峠 (はっかとうげ) 展望台」を訪問しました。「十和田湖と言えば、青森県からのアクセスが主流と考えられているが、景色・眺望は間違いなく秋田県側だ！」と小坂町の担当者。当日は、あいにくの曇天ではありましたが、Rita さんからも壮大な景色は確かに、間違いなく！と驚きの声があがりました。



(紫明亭・発荷峠)

<十和田湖畔、樹恩の鐘> (小坂町)

峠から、今度は湖畔へ場所を移して、遊歩道を散策しました。また、小坂町にゆかりのあるドイツ人技師のふるさとで制作されたブドウをモチーフにした鐘が、高さ 12m の屋根から吊るされた「樹恩の鐘」を見学しました。



(十和田湖畔)

(樹恩の鐘)

<新安比温泉／あしろグルチャリ体験> (八幡平市)

秋田県から岩手県に戻って、八幡平市を訪問しました。八幡平市は、スキー場や温泉、滝など豊かな大自然と、近年は、日本初の英国式全寮制のインターナショナルスクールが開校したことで有名です。

はじめに、本年5月から新安比温泉で貸し出されている電動アシストの自転車「あしろグルチャリ」を借りて、サイクリングをしながらグルメ、ショッピングに出かけました。



(あしろグルチャリが借りられる新安比温泉)

<麴屋もとみや SHIMONO528> (八幡平市)

本年8月に SHIMONO528 としてリニューアルオープンした約90年の歴史をもつ「麴屋もとみや」に向かいました。ここでは、天然醸造で2年間じっくり熟成させたこうじみそを中心に、加工食品が販売されています。こうじのパウダーを混ぜたバンズに短角牛と塩こうじを合わせたパテを挟んだ「528 バーガー」を頂いたRitaさんから「ハンバーガーめっちゃ美味しかったです！東京に戻った今でもすごく印象に残っています。店内もオシャレで素敵です！」と高評価でした。



(リニューアルオープンした SHIMONO528)



(大きなバーガーを頬張る Rita さん)

<不動の滝> (八幡平市)

次の目的地は、日本の滝百選に選ばれている「不動の滝」、ここまで長い上り坂が続きますが、電動アシスト自転車のため、坂道もスイスイと進み難なくたどり着くことが出来ました。

高さ 15mの滝からあがる水しぶきと垂直に流れ落ちるさまは圧巻で、目の前にかかる赤い橋と森の緑、流れ落ちる滝のコントラストが美しく、Rita さんからは「神社の参道を通って滝に到着するところに、日本らしさを感じました。」との感想がありました。



(滝へと続く神社の参道)



(不動の滝)

<ふうせつ花> (八幡平市)

次に向かった先は、ざる豆腐と生湯波の店「ふうせつ花」です。国産大豆の中でも在来品種に限定し、豊かな自然から育まれた水を使って豆腐づくりを行っています。ざるおぼろ豆腐をはじめ、くみ上げ湯波、湯波コロッケ、豆腐ワッフル&ドーナツなどのお土産も人気。

中でも、ここでは、すっきりとした味ながらしっかりと豆腐の味がすると、人気の高いざるおぼろソフトクリームをいただきました。



(オシャレな外壁のふうせつ花)



(店舗の傍らに設置されたブランコ)

<羽沢製菓> (八幡平市)

南部せんべいは、小麦粉と塩と水を混ぜて練った生地を、丸い鑄型で焼いた、素朴ながらも味わい深い食べ物で、八戸地方・岩手県北部でよく食べられています。昭和 40 年から現在に至るまで、手作りの味にこだわり続け、開業当時と同じ製造方法で真心を込めて一枚いちまい焼き上げている「羽沢製菓」を訪問し、製造工場を見学させていただきました。※工場見学は要事前予約。



(南部せんべい製造工場)



(羽沢製菓販売店舗)

<安比塗漆器工房> (八幡平市)

最後の行程は、食をテーマにしたツアーの終幕を飾るにふさわしい、食には欠かせない器を作る「安比塗漆器工房」を見学しました。

安比塗の原型となる木地は全て国産材で、いまや希少となった岩手県産の漆を使用し、デザインはシーンやシチュエーションを選ばずに、いつまでも飽きがこないシンプルさが特徴です。安比塗では、季節や天候を考慮しながらすべての漆を工房内で精製しているため、つねに同じ品質が保てます。



(塗師の作業を見学)



(お気に入りの器と Rita さん)

<JR 盛岡駅 ツアー終了>

3泊4日のツアーもあっという間に終わりの時間となり、Rita さんにお礼の挨拶をしてお別れとなりました。

<最後に>

今回は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い中国の隔離期間が設定されている影響を踏まえて、日本国内に在住する中国人インフルエンサーである Rita さんをお招きしてツアーを実施しました。

この度のツアー内容については、Rita さんの SNS（微博）を通じて中国の方を中心に魅力発信してもらいました。また、ツアー中に撮影した動画を、上海エリアの ABC クッキングスタジオに設置されたデジタルサイネージで放映します。

これまで地域にあった魅力的なコンテンツに加えて、Rita さんだからこそ気づいた新たな魅力を発信していただくなど、外国人ならではの視点でツアーを巡っていただけたことは、今後の盛岡市ほか6市町（岩手県八幡平市・宮古市・岩泉町・葛巻町、秋田県鹿角市・小坂町）の海外販路開拓・インバウンド促進に非常に役立つものと思っております。

なお、本ツアーで得た写真や動画などの PR 素材、Rita さんへのアンケートにてご指摘いただいた発信ポイントや改善点を十分活用し、7市町に海外からより多くの方が訪問されることを期待して、活動報告といたします。



参考（主なツアー行程）

1日目

時間	場所 (内容)
11:00	JR盛岡駅 (集合)
12:40~13:45	魚彩亭すみよし (昼食)
14:00~16:00	浄土ヶ浜/青の洞窟 (さつぱ船遊覧)
16:05~19:00	浄土ヶ浜パークホテル (チェックイン・夕食)
19:30~20:00	山水 (ローカル居酒屋で夕食)
20:20~	浄土ヶ浜パークホテル (宿泊)

2日目

10:00~11:20	龍泉洞 (見学)
11:25~12:25	龍泉洞温泉ホテル (昼食)
12:35~13:20	道の駅いわいずみ (間食 (イタリアンジェラート))
14:50~15:50	くずまき高原牧場 (バターづくり体験、動物とのふれあい)
17:20~19:30	愛真館 (チェックイン・夕食)
20:15~20:40	ホテル紫苑 (さんさ踊り見学)
20:50~	愛真館 (宿泊)

3日目

10:30~12:30	道の駅かつの (祭り展示館見学、たんぼづくり体験、昼食)
13:00~14:00	大湯ストーンサークル (見学)
14:20~16:00	小坂鉱山事務所、康楽館、明治百年通り (レンタル衣装・見学)
16:15~17:15	小坂七滝ワイナリー、鶉地区ぶどう畑、七滝 (見学)
17:30~	ホテル小坂ゴールドパレス (チェックイン・夕食・宿泊)

4日目

8:30~8:50	紫明亭、発荷峠展望台 (見学)
8:55~9:50	十和田湖畔、樹恩の鐘 (見学)
11:20~11:30	新安比温泉 (あしろグルチャリ体験)
11:50~12:50	麴屋もとみや (昼食)
13:05~13:30	不動の滝 (見学)
13:45~14:15	ふうせつ花 (間食 (ざるおぼろソフトクリーム))
14:30~15:00	羽沢製菓 (南部せんべい製造工場見学)
15:10~15:30	安比塗漆器工房 (見学)
16:45	JR盛岡駅 (解散)